

指導教員によるコメント

小松奈々さんの今回の研修の目的は、海外、特に韓国における日本語教育の実態を把握し、その成果を博士論文に活かすことである。

小松さんの博士論文のテーマは、上級日本語学習者が話し合い場面においてどのように意見を交換し、合意に至っていくのかを明らかにすることである。円滑なコミュニケーションを通じた協働的意思決定プロセスの解明は、グローバル社会における喫緊の課題であると考えられる。研修においては、そのような話し合いの場面の指導を観察することができ、大変有意義な研修となった。

上記に加え、韓国の大学の授業を見学したり、関係の先生方や研究者の方々と交流したりすることによって、博士論文の執筆に向けて、問題意識が明確になるとともに研究に関する様々な具体的な示唆を得ることができた。小松さんは、将来、韓国で日本語教育及び日本語教育研究に携わる予定であり、その点においても非常に大きな収穫となった。

今後は、研修の成果を活かして、博士論文執筆を視野に入れて、修士論文で行った分析の精緻化及び新たなデータ収集を行う予定である。

佐々木 泰子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）